

事前評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

平成29年8月21日(月)

| | | |
|--|-------------------|-----|
| 研究種別 | 県単(一般分)課題 | |
| 研究課題名 | 鶏肉副産物の高付加価値化技術の開発 | |
| 研究期間 | 平成30年度 ~ 平成32年度 | |
| | 評価項目 | 平均点 |
| 1 | 研究の必要性 | 4.2 |
| 2 | 研究内容の新規性 | 3.8 |
| 3 | 研究目標、研究計画の妥当性 | 4.0 |
| 4 | 研究予算、研究体制の妥当性 | 4.0 |
| | 総合評点 | 4.0 |
| [コメント] | | |
| <p>本研究課題は、鶏肉生産において価格が安い副産物部位に付加価値をつけることで、生産者や流通関係者の収益力向上に結びつける内容となっている。 筋胃の肥大化や脂肪肝作成については、これまでに行われてきた基礎的な知見に基づいて試験計画が立てられており、三年間での実用化が強く期待できる。 脂肪肝作成においては、飼料中の脂肪の質を変化させることで、生産される白肝に特色を持たせようとしているところに新規性があり、これが実現できれば新たな甲州ブランド食品の創出にも結びつくと考えられる。</p> | | |

| | | |
|--|--------------------------|-----|
| 研究種別 | 県単(一般分)課題 | |
| 研究課題名 | 暑熱時における卵重増加のための栄養調整技術の開発 | |
| 研究期間 | 平成30年度 ~ 平成34年度 | |
| | 評価項目 | 平均点 |
| 1 | 研究の必要性 | 4.4 |
| 2 | 研究内容の新規性 | 3.8 |
| 3 | 研究目標、研究計画の妥当性 | 4.0 |
| 4 | 研究予算、研究体制の妥当性 | 4.0 |
| | 総合評点 | 4.1 |
| [コメント] | | |
| <p>本研究課題は、産卵鶏が夏季に産卵率と卵重が低下することに対し、飼料中の栄養成分を調整することにより暑熱ストレスを緩和し、消費者に好まれるサイズの鶏卵の生産性を向上することを目指している。この実現は、養鶏農家の収益性向上に重要であり、生産現場からも強く要望されている。</p> <p>これまでの研究成果から、特定のアミノ酸の添加により、産卵率の低下を防止し、卵重を増加できること、さらに暑熱ストレスによる卵殻質の低下を、ミネラル成分の調整で防止できることが明らかにしてきた。本研究課題の新規性は、夏季の産卵率の向上、卵重の増加、そ卵殻質低下の防止を同時に図ろうとしている点にあり、ここで得られた成果は、生産現場に直ちに取り入れられ、収益性向上に結びつくものと考えられる。</p> <p>暑熱対策は、畜舎等の環境面では進んできている一方で、生体に対する暑熱の影響評価や適応策については十分な知見があるとはいえない。今後も気候変動が続くことを考えれば、基礎研究としても本課題は重要である。</p> | | |

| | | |
|--|------------------|-----|
| 研究種別 | 重点化課題 | |
| 研究課題名 | 牛体外受精卵の高度生産技術の確立 | |
| 研究期間 | 平成30年度 ~ 平成32年度 | |
| | 評価項目 | 平均点 |
| 1 | 研究の必要性 | 4.6 |
| 2 | 研究内容の新規性 | 4.6 |
| 3 | 研究目標、研究計画の妥当性 | 4.2 |
| 4 | 研究予算、研究体制の妥当性 | 4.2 |
| | 総合評点 | 4.4 |
| [コメント] | | |
| <p>受精卵移植技術は乳用牛、肉用牛の改良増殖に不可欠な技術として確立されてきている。一般的に用いられる凍結体内受精卵移植と異なり、体外受精卵移植においては、複数頭分の卵巣を用いるため低コスト・大量生産できる一方で、親子関係が分からないため血統登録を行うことができない。</p> <p>本研究課題は、体外受精卵移植技術において問題となっている、血統登録と不安定な受胎率の解決を図る内容となっている。血統登録においては、培養方法を工夫して個別少量でも安定した発生率が得られる技術の確立、受胎率向上においては、受精卵のガラス化保存技術の改良、およびガラス化保存受精卵の直接移植法の開発に取り組むこととしている。</p> <p>本課題で得られる成果は、廃用牛や食肉センターにて廃棄される卵巣にある卵子を遺伝資源として有効活用できること、和牛受精卵の安定供給による甲州牛の生産基盤の拡大に、強く貢献すると考えられる。また、直接移植法については、山梨県畜産酪農技術センター独自の技術であり、特許申請も予定していることから、将来これが製品化されれば、山梨県のみならず全国への普及が期待できる。</p> | | |